

会議の名称	松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第2回会議
開催日時	2015年8月20日(木) 午後 2時 00分から 午後 3時 30分まで
開催場所	松伏町役場本庁舎3階 第二委員会室
出席者	(審議会委員) 敬称略 松伏町商工会会長：小島 朗 埼玉県東部地域振興センター所長：佐藤 正信 大正大学鴨台プロジェクトセンター部長補佐：佐藤 徹明 埼玉りそな銀行越谷支店支店長：久保埜 良幸 越谷公共職業安定所所長：飯野 哲義 埼玉新聞社取締役クロスメディア局長：宮下 達也 公募委員：古屋 由美 吉川青年会議所理事長：程田 幸秀 松伏中学校PTA会長：石原 みどり (松伏町) 企画財政課長：立沢 昌秀、新市街地整備課長：齋藤裕之、 企画財政課主幹：目黒 健二、企画財政課主任：末次 雄一郎、 企画財政課主事：栗原 嘉顕 (策定支援業者) 虎見 和幸、上坂 明、樋口 智哉
欠席者	公募委員：田村 笑
議題 (次第)	1 人口の将来展望と総合戦略の方向性について 2 総合戦略の事業実施における官民協働について 3 その他
配付資料	・ 次 第 ・ 資料1 松伏町人口ビジョンと総合戦略の方向性について ・ 資料2 人口の将来展望に向けた検討 ・ 資料3 松伏町総合戦略施策の方向性の検討 ・ 資料4 松伏町総合戦略策定に係る町民意識調査 中間報告書
主管課	企画財政課

進行者・発言者	発言内容・決定事項等
議題1 人口の将来展望と総合戦略の方向性について	
事務局	<p>(これまで検討されてきた人口推計と町民意識調査の回答から、町の課題を整理、人口減少に対応する総合戦略の方向性と、施策を踏まえた独自の人口推計について事務局から資料1を用いて説明。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立社会保障・人口問題研究所(以後、社人研)では、町の人口は2040年には26,000人に、2060年には20,213人まで減少すると推計され、国・県よりも町の人口減少のペースが速いとされている。 ・ 平成25年合計特殊出生率が国1.43県1.33に対し、町は1.05。 ・ 2010年と2030年を比較しても子育て世代の構成比率が22%から17%へと著しく減少する、この世代を呼び込むことが人口減少の歯止めをかけるために不可欠である。 ・ 地方創生に関する町民意識調査を無作為抽出で1,500人に実施。 ・ 回収率は40.7% ・ 強みを伸ばし、弱みを克服することで人口増を図る。 ・ 今ある町の魅力を活かし、新たな市街地の形成、町全体のプロモーションを強化していく。 ・ 国の総合戦略の基本目標は4つ。 <ul style="list-style-type: none"> ①まち : 時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守り、地域間が連携する。 ②ひと : 地方の新しいひとの流れをつくる。 ③しごと : 地方における安定した雇用を創出する。 ④子育て : 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。 ・ 町においてもこれらに則った基本目標を今後設定していく。 ・ 基本目標ごとの事業展開を例示、今後関係団体と連携しながら事業の内容を調整していきたい。 ・ 子育て世代をターゲットとし、社人研が推計する社会増に加えて、64才未満の世代が転入超過となるような施策を実施していきたい。 ・ 出生率について現時点で差があるもの、上昇ペースは国県と同じとしたい。 ・ 社人研の推計する社会増減に一定の改善を加え、国県と同様に出生率が上昇していくものとして推計し、2060年の目標人口を23,664人としていきたい。 (グラフでいう赤い線。)
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットについてどうか。 子育て世代が増えるのは一番いいと思うが、子育て世帯をターゲットとするどこも同じになってしまうのでは。 ・ 今の労働力は60歳以上が中心となっている現状があると思う。 ・ 30・40代をターゲットにしたいが、実情を考えると、疑問が残る。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・松伏町に住んで良かったとか離れたくないというように、既存の住民の満足度を高めることが一番重要なのではないか。 ・U・Iターンが多いまちは、満足度が高いため、子どもが出来たときに戻ってくる率が高い。 ・移動してくるタイミングとして、出産・就学・成人後（老後）、3つのパターンがあると思う。それぞれのタイミングに分けて考えることが重要ではないか。 ・転入対策というよりは転出対策が重要であるように思える。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした意見を踏まえて策定を進めていただきたい。 ・次に、人口推計パターンについてはいかがか。詳細なデータに基づき作成されているようだが、意見が無ければ、事務局案で良いか。
一同	承認
議題2 人口の将来展望と総合戦略の方向性について	
事務局	<p>（資料3の6ページについて説明。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の課題や意識調査から、町の強みを活かし、弱みを克服することで人口増が図れるよう、地方創生の4つのテーマを掲げ、各種事業を展開していくことになる。 ・それぞれの立場から、町と連携して取り組むことのできることや、政策に関する意見を伺いたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・直近5年について審議会委員各分野から見てできそうなことは何か。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略は県でも5・6月に15名の有識者会議を開いて検討を進めている。 ・県でもまだ戦略等を具体的に示せる状況ではなく、基礎自治体での検討と同じように進めている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー層にとっては、保育施設の充実は不可欠である。また安い住宅事情であれば人が来ると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む地域に関心のない学生が増えており、学生の目を地域に向ける取り組みを進めている。学校教育法でも大学の役割として地域貢献、社会連携が位置づけられ、試行錯誤している。 ・大正大学の松伏キャンパスは、現在約5000人学生がいるうち、野球部の学生約100名が利用しているだけである。残りは豊島区巣鴨のキャンパス。 ・地域創生学部を来年4月に創設する予定であり、地域資源の開発や魅力づくりをする学生を募る予定であり、実習の場としての受入を松伏町とも調整している。 ・豊島区との連携協定を結び、公民館の運営、商店街活性化のイベント企画、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）支援、魅力を伝えるプロモーションビデオの作成、地元イベントの受け入れ等、経験を積んでいるところである。 ・ファミリー層の次の世代を確保することも重要である。大学生と町内の中高生がチームを組んでできるワークショップ等できれば協力はできると思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・都市政策が重要である。たとえば工業団地等の企業誘致。都内に就業しても、松伏に工場があれば、転勤で松伏に住むことになる。 ・1つの都市を作るイメージで、鉄道駅はなくとも、トロリーバス等、別の形で交通面を整備することも重要である。 ・東埼玉道路の脇に工業団地の誘致ができるのではないかな。 ・都市型農業、近代化設備を設け、そこに若い人を巻き込んでいってはどうかな。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・土地基盤や仕事の間がしっかりしていないと人は来ないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本日、ハローワークの諸制度について紹介している資料を持参した。 ・働きながら子育て出来る環境について、育児休業給付制度という制度がある。一定要件を満たせば給与の50%を支給するという制度である。 ・会社への支援としては資料9ページの「仕事と家庭の両立関係支援助成金等」を活用してほしい。育休代替者の賃金補助等できる。 ・町に制度を知り尽くした担当者をおけると良い。 ・非正規社員を正社員に雇用転換を補助する取り組みがあると良い。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした情報を町から積極的に提供する仕組みを構築することも重要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉新聞のクロスメディア局では、国交省と協働して、道の駅のPRイベントを告知からイベントの実施、紙面展開まで一体で行った実績がある。 ・県から請け負って、埼玉県の働く女性を支援する、ウーマノミクス推進を展開中である。 ・若年者雇用等についても、ハローワークとの交友関係がある。 ・坂戸市では新聞社が住民や大学と協力して、取材、調査、新聞記事の作成等まちのプロモーションに取り組んでいる。久喜市では吉本興業との提携を検討している。 ・松伏町でも何か協力できると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境が不安である。小学校卒業後も町内で満足できる教育環境を作っていくことが必要。 ・10代にとって、家の外に目を向けて、安全に遊べるような場所が欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・松伏町は女性が地元に戻ってきているイメージがある。 ・松伏の自然や農業があることを活用して、働く場所等が出来たらいいと思う。 ・大学が遠く、下宿をしてそのままそこに移住してしまう世代が多いと思う。 ・中学生以上になると、公共交通の問題が重要になってくる。子どもは車を運転できないため、バスの便を良くする等交通機関を動かすことも必要になってくる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・青年会議所では「まちづくりをする人づくり」を進めている。 ・青年経済人を集めて、町に貢献できる人材を輩出するという面で協力が出来ると思う。 ・地域貢献と青少年育成の取り組みを行っており、こども20人を連れて町外

	<ul style="list-style-type: none"> に行く自然体験学習バスツアーを実施した。 ・子を持つ親として教育環境は大事だと思う。 ・突拍子の無い意見ではあるが、交通状況が不便であるため、出て行ってしまいう学生がいる状況を考慮して、町に何年か住めば、奨学金や通学費等を補助する等、行ってみてはどうか。 ・とびぬけた制度があれば自然と人は集まってくるのではないか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域と同じことをしても意味がない。地域特性を活かしていきたい。 ・金杉地区は江戸川の高台となっており、水災害対策の拠点としての役割が期待できる。 ・江戸川沿いのサイクリングロードに休憩所・食事処等を設けてみてはどうか。 ・かつて町では早稲を作っていた。農業体験等してみてはどうか。 ・町には3本の河川が流れており、特に古利根川は水量も多く、例えばカヌー教室をやってみてはどうか。 ・交通アクセスの不便さに勝る、何かしら一番、優れている、というものをつくることで、町の特徴を作っていきたい。
議題3 その他	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料19ページの町の出生率について、途中で上昇率が落ちてしまうのはなぜか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県の数値設定を参考にしており、人口の維持を目的としたものである。国の目標値に合わせた場合、という仮定の数値であり、出生率の上昇率を下降させるものではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町としてはどのようなシミュレーションが望ましいのか。住民に危機感を共有するのか、目標を定めていくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国からは、県の策定する計画とも整合を図るよう要請されており、県の人口推計における数値設定も参考にしていく。 ・出生率を1つの町だけで数字に反映させることは難しい。国や県等大きな組織の中で、総合的に底上げしていくべき分野である。 ・いずれの数字に定めるとしても、考え方を整理する必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率を一自治体で上げることは難しい。 ・町の強み弱みを洗い出し、町の強みを伸ばすか、弱みを克服していくか、考えていくべき。 ・道路が空いているので、子どもの通塾の為のバス増便等検討してはどうか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・人口シミュレーションについては、理想的なものを考えていかなければならない。 ・出生率については、町だけで出来る話ではないが、妥当なラインを見つけておきたい。 ・町としてはどの程度を考えているか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料1 9ページの「町①」が妥当ではないか。「町②」のシミュレーションでは、県の倍以上の上昇率を続けていくことが必要となってしまう、現実的ではない。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 人口シミュレーションについては確認を取りながら決めていかなければならない。どこでどのように人口減少を食い止めるのか、ということが5か年の総合戦略で定めるべきことだと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代がどの程度増えているか管理する KPI やシミュレーションを出していくことも重要だと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢は 18～65 歳となっているが、働き盛りの高齢者がたくさんいる町の状況を考えると、75 歳までは働ける。 元気な高齢者を呼び込んで、働く場所を作るということも考えの 1 つにはあると思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 他と同じではダメ。65 歳以上の人の中には元気で働き盛りの人もいる。その辺にターゲットを取るのも 1 つの考え方の例だと思う。 事務局は本日出た委員からの意見を踏まえて、人口推計と具体的な施策の検討に入ってもらいたい。 最後に事務局から何か連絡事項等はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 次回の開催は 11/10(火) 同時間を予定している。 次回は人口ビジョン及び総合戦略の基本目標、具体的な施策と KPI について、審議会委員から意見を伺いたい。